

四半期報告書

(第214期第3四半期) 自 平成28年10月1日
至 平成28年12月31日

三菱倉庫株式会社

(E04283)

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
2 【役員の状況】	8
第4 【経理の状況】	9
1 【四半期連結財務諸表】	10
2 【その他】	18
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	19

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年2月14日

【四半期会計期間】 第214期第3四半期(自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日)

【会社名】 三菱倉庫株式会社

【英訳名】 Mitsubishi Logistics Corporation

【代表者の役職氏名】 取締役社長 松井明生

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋一丁目19番1号

【電話番号】 東京03(3278)6611

【事務連絡者氏名】 経理部経理課長 三浦弘樹

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋一丁目19番1号

【電話番号】 東京03(3278)6611

【事務連絡者氏名】 経理部経理課長 三浦弘樹

【縦覧に供する場所】 三菱倉庫株式会社 横浜支店
(横浜市中区太田町四丁目55番地 横浜馬車道ビル)

三菱倉庫株式会社 名古屋支店
(名古屋市中村区名駅三丁目16番22号
名古屋ダイヤビルディング1号館)

三菱倉庫株式会社 大阪支店
(大阪市福島区野田六丁目5番20号
大阪ダイヤビルディング)

三菱倉庫株式会社 神戸支店
(神戸市中央区東川崎町一丁目7番4号
ハーバーランドダイヤニッセイビル)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第213期 第3四半期 連結累計期間	第214期 第3四半期 連結累計期間	第213期
会計期間	自 平成27年 4月1日 至 平成27年 12月31日	自 平成28年 4月1日 至 平成28年 12月31日	自 平成27年 4月1日 至 平成28年 3月31日
営業収益 (百万円)	156,999	155,407	206,831
経常利益 (百万円)	10,786	13,191	14,025
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	7,918	9,011	9,350
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,623	18,470	△3,494
純資産額 (百万円)	264,651	273,866	257,524
総資産額 (百万円)	425,524	430,817	413,264
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	45.19	51.43	53.37
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	61.6	63.0	61.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	11,573	16,690	17,246
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△5,202	△11,146	△7,032
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△6,965	△6,749	△7,927
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	42,845	43,753	45,658

回次	第213期 第3四半期 連結会計期間	第214期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年 10月1日 至 平成27年 12月31日	自 平成28年 10月1日 至 平成28年 12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	16.02	22.54

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
- 2 営業収益には消費税等は含まない。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、設備投資の持ち直しの動きに足踏みがみられるものの、雇用情勢が改善し、個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかな回復基調が続きました。

こうした経済情勢にあって、当社グループを取り巻く事業環境は、倉庫及び港湾運送等物流業界においては、貨物量の伸び悩みや競争の激化等により、また不動産業界においては、賃貸オフィスビルの需給改善の兆しがあるものの賃料水準の回復には至らず、引き続き厳しい状況のうちに推移しました。

このような状況の下、当社グループは、積極的な営業活動を推進し、物流事業では、医薬品等の配送センター業務の拡大、海外拠点の拡充等に努め、不動産事業では、テナントの確保及び賃料水準の維持・向上に努めました。他方、コスト管理の徹底と業務の効率化を一層推し進め、業績の確保に努めました。

この結果、営業収益は、物流事業で、陸上運送事業や港湾運送事業において貨物取扱量が増加したものの、国際運送取扱事業において海上運賃下落や為替円高の影響等により収入が減少したため、不動産事業で、マンション販売物件の増加により収入が増加したものの、全体として前年同期比15億9千2百万円（1.0%）減の1,554億7百万円となりました。また営業原価は、物流事業で国際運送取扱事業の収入減少に伴い作業運送委託費が減少したほか、物流及び不動産の両事業で減価償却費が減少したため、不動産事業でマンション販売物件の増加に伴い不動産販売原価等が増加したものの、全体として前年同期比41億6千4百万円（3.0%）減の1,368億6百万円となり、他方販売費及び一般管理費は、事業税外形標準課税部分の増加等により、同3億4千9百万円（4.8%）増の76億1千6百万円となりました。

このため、営業利益は、物流及び不動産の両事業で増益となったので、全体として前年同期比22億2千3百万円（25.4%）増の109億8千4百万円となり、経常利益は、同24億4百万円（22.3%）増の131億9千1百万円となりました。また親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券売却益が減少したものの、法定実効税率引下げの影響もあり、前年同期比10億9千2百万円（13.8%）増の90億1千1百万円となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

① 倉庫・港湾運送等の物流事業

倉庫事業は、医薬品等の取扱増加があったものの非鉄金属等の取扱減少もあり、営業収益は前年同期比0.9%減の366億6百万円となりましたが、陸上運送事業は、医薬品等の取扱増加により、営業収益は同2.0%増の336億7千9百万円となりました。また港湾運送事業は、コンテナ貨物の取扱増加等により、営業収益は前年同期比8.1%増の171億1千8百万円となりましたが、国際運送取扱事業は、海上運賃下落や為替円高の影響等により、営業収益は同16.6%減の314億9千8百万円となりました。

この結果、物流事業全体の営業収益は、前年同期比48億1千6百万円（3.8%）減の1,229億3千5百万円となりました。また営業費用は、国際運送取扱事業の収入減少に伴い作業運送委託費が減少したほか、減価償却費や修繕費の減少もあり、前年同期比60億6千6百万円（4.9%）減の1,176億5千8百万円となりました。このためセグメント利益（営業利益）は、前年同期比12億5千万円（31.1%）増の52億7千6百万円となりました。

② 不動産事業

主力の不動産賃貸事業は、電力料等の付帯収入の減少等により、営業収益は前年同期比1.5%減の228億7千6百万円となりました。その他の営業収益は、マンション販売事業における販売物件の増加により、前年同期比47.8%増の111億4千5百万円となりました。

この結果、不動産事業全体の営業収益は、前年同期比32億4千8百万円（10.6%）増の340億2千1百万円となりました。また営業費用は、マンション販売物件の増加に伴い不動産販売原価等が増加したため、減価償却費の減少があったものの、前年同期比17億1千6百万円（7.7%）増の241億2千万円となりました。このためセグメント利益（営業利益）は、前年同期比15億3千1百万円（18.3%）増の99億1百万円となりました。

セグメント別営業収益

セグメント	営業収益(百万円)	前年同期比	
	当第3四半期連結累計期間	金額(百万円)	(%)
倉庫・港湾運送等の物流事業			
（倉庫事業）	36,606	△315	△0.9
（陸上運送事業）	33,679	672	2.0
（港湾運送事業）	17,118	1,289	8.1
（国際運送取扱事業）	31,498	△6,266	△16.6
（その他）	4,031	△196	△4.7
計	122,935	△4,816	△3.8
不動産事業			
（不動産賃貸事業）	22,876	△357	△1.5
（その他）	11,145	3,605	47.8
計	34,021	3,248	10.6
セグメント間取引消去	△1,550	△24	—
合計	155,407	△1,592	△1.0

(注) 物流事業における業務の多様化に伴い、従来の物流事業の「その他」の営業収益が増加したため、第1四半期から、物流事業における各事業の営業収益の計上区分を次のとおり変更している。

- (1) 「倉庫事業」の営業収益において、従来の収入（倉庫保管料及び倉庫荷役料）に、その他の倉庫事業関連収入（当第3四半期：6,551百万円、前第3四半期：6,848百万円）を加える。
- (2) 「陸上運送事業」の営業収益において、従来の収入（陸上運送料）に、その他の陸上運送事業関連収入（当第3四半期：0百万円、前第3四半期：0百万円）を加える。
- (3) 「港湾運送事業」の営業収益において、従来の収入（港湾荷役料）に、その他の港湾運送事業関連収入（当第3四半期：3,706百万円、前第3四半期：3,219百万円）を加える。
- (4) 「国際運送取扱事業」の営業収益において、従来の収入（国際運送取扱料）に、その他の国際運送取扱事業関連収入（当第3四半期：95百万円、前第3四半期：94百万円）を加える。
- (5) 「その他」の営業収益において、従来の収入から、上記(1)～(4)の合計額（当第3四半期：10,353百万円、前第3四半期：10,163百万円）を減ずる。

(2) 財政状態の分析

① 総資産

当第3四半期連結会計期間の総資産は、主として株式相場回復に伴い「投資有価証券」が増加したため、前期末比175億5千2百万円増の4,308億1千7百万円となりました。

② 負債合計

当第3四半期連結会計期間の負債合計は、返済の進捗に伴い「借入金」が減少したものの、株式相場回復に伴い「繰延税金負債」が増加したため、前期末比12億1千万円増の1,569億5千1百万円となりました。

③ 純資産

当第3四半期連結会計期間の純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により「利益剰余金」が増加したほか、株式相場回復に伴い「その他有価証券評価差額金」が増加したため、前期末比163億4千1百万円増の2,738億6千6百万円となりました。

④ 自己資本比率

この結果、当第3四半期連結会計期間の自己資本比率は、前期末を1.3ポイント上回る63.0%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却による資金留保等により、166億9千万円の増加（前年同期は115億7千3百万円の増加）となりました。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出等により、111億4千6百万円の減少（前年同期は52億2百万円の減少）となりました。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済による支出等により、67億4千9百万円の減少（前年同期は69億6千5百万円の減少）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローは、これらに現金及び現金同等物に係る換算差額（7億円の減少）を加えた全体で19億5百万円の減少となり、現金及び現金同等物の四半期末残高は437億5千3百万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、株式会社の支配に関する基本方針を以下の通り定めております。

○会社の支配に関する基本方針

当社グループの主たる事業は、倉庫事業を中核とする物流事業並びにビル賃貸を中心とする不動産事業であります。

物流事業については、倉庫事業を中核として陸上運送・国際運送取扱・港湾運送の各事業を情報通信技術の活用により有機的かつ総合的に運営することを目指し、不動産事業については、所有地の立地に適した活用により、主としてオフィスビル・商業施設の賃貸事業の展開を図っており、これら事業のフェアな遂行を通じて、適正な利潤の確保と安定した成長を図り、株主及び社員に報いるとともに、豊かな社会の実現に貢献していきたいと念願しております。

両事業とも、好立地の土地、建物、設備等を要する性格上、多額の投資を必要としますので、事業の拡大・発展を目指して、資金をはじめとする経営資源の投入は、長期的視野に立ち、継続的、計画的に展開しております。

当社は、当社株式の大量取得を目的とする買付けの意義を一概に否定するものではありませんが、上記に反するような当社の企業価値ひいては株主の共同の利益を損なう買付けは適切でないと考えております。

現在のところ、当社株式を大量に取得しようとする者の存在は認識しておりませんが、当社株式の異動状況を常に注視し、このような考え方に反して当社株式を大量に取得しようとする者が出現した場合には、それが当社の企業価値、株主共同の利益向上に資するものでないときは、適切な対抗措置を検討し、速やかに実施する体制を整えることとしております。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	440,000,000
計	440,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	175,921,478	175,921,478	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式 (単元株式数は1,000株)
計	175,921,478	175,921,478	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年12月31日	—	175,921,478	—	22,393	—	19,383

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成28年9月30日の株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区 分	株式数(株)	議決権の数(個)	内 容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 649,000	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 525,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 173,889,000	173,889	—
単元未満株式	普通株式 858,478	—	一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	175,921,478	—	—
総株主の議決権	—	173,889	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、相互保有株式1,397株(福井倉庫株式会社保有995株、株式会社草津倉庫保有402株)及び当社保有の自己株式907株が含まれている。

② 【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 三菱倉庫株式会社	東京都中央区日本橋 1丁目19-1	649,000	—	649,000	0.37
(相互保有株式) 福井倉庫株式会社	福井県福井市花堂北 1丁目4-22	277,000	—	277,000	0.16
株式会社草津倉庫	滋賀県草津市大路 1丁目13-25	138,000	—	138,000	0.08
中谷運輸株式会社	大阪府大阪市港区 海岸通1丁目5-22	50,000	—	50,000	0.03
湘南企業株式会社	神奈川県横浜市中区 日本大通60	30,000	—	30,000	0.02
相互運輸株式会社	福岡県福岡市博多区大 博町6-16	30,000	—	30,000	0.02
計	—	1,174,000	—	1,174,000	0.67

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	45,398	42,269
受取手形及び営業未収金	31,509	※2 34,007
有価証券	2,000	3,000
販売用不動産	10,968	9,689
繰延税金資産	1,528	1,103
その他	4,775	6,144
貸倒引当金	△89	△85
流動資産合計	96,091	96,128
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	112,241	106,237
機械装置及び運搬具（純額）	4,204	3,929
土地	74,322	79,885
建設仮勘定	556	2,589
その他（純額）	2,867	2,564
有形固定資産合計	194,192	195,207
無形固定資産		
借地権	7,722	7,722
のれん	1,583	1,262
その他	6,825	6,658
無形固定資産合計	16,131	15,643
投資その他の資産		
投資有価証券	98,237	115,379
長期貸付金	501	541
繰延税金資産	2,460	2,398
その他	5,792	5,681
貸倒引当金	△22	△22
投資損失引当金	△118	△140
投資その他の資産合計	106,849	123,837
固定資産合計	317,173	334,688
資産合計	413,264	430,817

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	18,954	※2 20,253
短期借入金	16,028	20,937
未払法人税等	2,521	1,529
取締役賞与引当金	40	33
その他	11,621	12,472
流動負債合計	49,166	55,226
固定負債		
社債	27,000	27,000
長期借入金	27,926	18,336
長期預り金	22,776	22,320
繰延税金負債	14,805	20,396
役員退職慰労引当金	197	185
退職給付に係る負債	13,553	13,182
その他	316	303
固定負債合計	106,574	101,724
負債合計	155,740	156,951
純資産の部		
株主資本		
資本金	22,393	22,393
資本剰余金	19,618	19,625
利益剰余金	172,200	179,108
自己株式	△807	△826
株主資本合計	213,405	220,301
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	40,282	52,334
為替換算調整勘定	1,703	△858
退職給付に係る調整累計額	△449	△446
その他の包括利益累計額合計	41,535	51,029
非支配株主持分	2,583	2,535
純資産合計	257,524	273,866
負債純資産合計	413,264	430,817

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
営業収益		
倉庫保管料	17,787	17,664
倉庫荷役料	12,285	12,390
陸上運送料	33,006	33,679
港湾荷役料	12,606	13,409
国際運送取扱料	37,670	31,402
不動産賃貸料	24,577	24,106
その他	19,064	22,754
営業収益合計	156,999	155,407
営業原価		
作業運送委託費	65,938	60,908
人件費	26,270	26,652
施設賃借費	6,787	6,668
減価償却費	9,990	9,294
その他	31,984	33,281
営業原価合計	140,971	136,806
営業総利益	16,028	18,600
販売費及び一般管理費	7,266	7,616
営業利益	8,761	10,984
営業外収益		
受取利息	28	21
受取配当金	1,825	1,811
持分法による投資利益	307	385
その他	442	491
営業外収益合計	2,603	2,711
営業外費用		
支払利息	535	473
その他	42	30
営業外費用合計	577	503
経常利益	10,786	13,191
特別利益		
固定資産処分益	21	26
投資有価証券売却益	1,825	36
施設解約補償金	38	172
特別利益合計	1,885	235
特別損失		
固定資産処分損	514	219
投資損失引当金繰入額	18	21
損害補償費用	139	-
特別損失合計	673	241
税金等調整前四半期純利益	11,999	13,186
法人税等	4,034	4,128
四半期純利益	7,965	9,058
非支配株主に帰属する四半期純利益	47	46
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,918	9,011

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	7,965	9,058
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,852	12,048
為替換算調整勘定	△452	△2,290
退職給付に係る調整額	△29	5
持分法適用会社に対する持分相当額	△7	△350
その他の包括利益合計	△4,341	9,412
四半期包括利益	3,623	18,470
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,535	18,505
非支配株主に係る四半期包括利益	88	△35

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	11,999	13,186
減価償却費	10,280	9,558
引当金の増減額 (△は減少)	29	24
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△346	△363
受取利息及び受取配当金	△1,854	△1,833
支払利息	535	473
投資有価証券売却損益 (△は益)	△1,825	△36
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,420	△3,096
販売用不動産の増減額 (△は増加)	△1,021	1,278
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,017	1,610
預り金の増減額 (△は減少)	1,940	1,394
その他	△142	△2,763
小計	15,156	19,432
利息及び配当金の受取額	2,059	2,114
利息の支払額	△596	△507
法人税等の支払額	△5,046	△4,348
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,573	16,690
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△7,864	△11,426
固定資産の売却による収入	23	51
投資有価証券の取得による支出	△39	△32
投資有価証券の売却による収入	2,661	52
その他	16	207
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,202	△11,146
財務活動によるキャッシュ・フロー		
借入金の純増減額 (△は減少)	2,409	△4,411
社債の償還による支出	△7,000	-
配当金の支払額	△2,105	△2,105
その他	△269	△233
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,965	△6,749
現金及び現金同等物に係る換算差額	△197	△700
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△791	△1,905
現金及び現金同等物の期首残高	43,276	45,658
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	360	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 42,845	※1 43,753

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	
(会計方針の変更)	
当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。	
なお、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。	

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。	

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結会社以外の会社の借入金等に対して次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
夢洲コンテナターミナル(株)	1,105百万円	1,065百万円
名古屋ユニテッドコンテナターミナル(株)	600 "	196 "
(株)ワールド流通センター	153 "	71 "
その他	31 "	14 "
計	1,890百万円	1,349百万円

※2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、当第3四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
受取手形	—	53百万円
支払手形	—	25 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
現金及び預金	39,980百万円	42,269百万円
預入期間が6か月を超える定期預金	△1,735 "	△1,516 "
容易に換金可能で価値変動リスクの 僅少な有価証券	4,600 "	3,000 "
現金及び現金同等物	42,845百万円	43,753百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,051	6	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金
平成27年10月30日 取締役会	普通株式	1,051	6	平成27年9月30日	平成27年12月1日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,051	6	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金
平成28年10月31日 取締役会	普通株式	1,051	6	平成28年9月30日	平成28年12月1日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	倉庫・港湾運送 等の物流事業	不動産事業	計		
営業収益					
外部顧客に対する営業収益	127,306	29,693	156,999	—	156,999
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	445	1,080	1,525	△1,525	—
計	127,751	30,773	158,525	△1,525	156,999
セグメント利益	4,026	8,369	12,395	△3,634	8,761

(注) 1 セグメント利益の調整額△3,634百万円には、セグメント間取引消去12百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,647百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	倉庫・港湾運送 等の物流事業	不動産事業	計		
営業収益					
外部顧客に対する営業収益	122,411	32,995	155,407	—	155,407
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	524	1,025	1,550	△1,550	—
計	122,935	34,021	156,957	△1,550	155,407
セグメント利益	5,276	9,901	15,177	△4,193	10,984

(注) 1 セグメント利益の調整額△4,193百万円には、セグメント間取引消去15百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,208百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	
1株当たり四半期純利益	45.19円	1株当たり四半期純利益	51.43円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	
(算定上の基礎)		(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,918百万円	親会社株主に帰属する四半期純利益	9,011百万円
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益	7,918百万円	普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益	9,011百万円
普通株主に帰属しない金額の主な内訳 該当事項はありません。		普通株主に帰属しない金額の主な内訳 該当事項はありません。	
普通株式の期中平均株式数	175,217,646株	普通株式の期中平均株式数	175,204,285株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第214期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）中間配当については、平成28年10月31日開催の取締役会において、平成28年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|----------------------|------------|
| ① 配当金の総額 | 1,051百万円 |
| ② 1株当たりの金額 | 6円 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成28年12月1日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 2月14日

三菱倉庫株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 金 塚 厚 樹 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 長 崎 康 行 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 秋 山 高 広 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三菱倉庫株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三菱倉庫株式会社及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年2月14日

【会社名】 三菱倉庫株式会社

【英訳名】 Mitsubishi Logistics Corporation

【代表者の役職氏名】 取締役社長 松井明生

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項なし

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋一丁目19番1号

【縦覧に供する場所】 三菱倉庫株式会社 横浜支店
(横浜市中区太田町四丁目55番地 横浜馬車道ビル)
三菱倉庫株式会社 名古屋支店
(名古屋市中村区名駅三丁目16番22号
名古屋ダイヤビルディング1号館)
三菱倉庫株式会社 大阪支店
(大阪市福島区野田六丁目5番20号
大阪ダイヤビルディング)
三菱倉庫株式会社 神戸支店
(神戸市中央区東川崎町一丁目7番4号
ハーバーランドダイヤニッセイビル)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役社長 松井明生は、当社の第214期第3四半期(自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

